

# 精油・サウナ・古民家活動多彩に

## 下山の同級生 帰郷機に奮起 ビレファン

### 豊田地域づくりフォーラム

豊田市の中山間地域で活動する団体が集まり、活動発表を通じて連携を深め合う「豊田の山里地域づくりフォーラム」が2月23日、足助町の豊田森林組合で開かれた。まちと田舎をつなぐおいでん・さんそんセンターと地域電力会社・MYパワーが共催して初めて開かれ、足助高生や下山の若者ら5人がゲストスピーカーとして発言、中山間地を舞台に旅行業や農業、精油づくりなどに取り組み12団体がブース出展した。太田市長も駆けつけ100人が参加した「豊田の山里」の最新事情をお届けする。【柴田永治】

下山ファンを増やすため、1年前に結成されたビレッジ・ファンズ・カンパニー(ビレファン)代表の川合真裕さん(32)は「音楽で食べていこうと高校からずっと地元を離れていたが、戻

って見たらまちの元気のなさに愕然とした。高齢化や離農の現実を逆手に取り、移住者でもすぐに地域の中心になれることや、経験豊富な先輩が身近にいる田舎の強みをアピールしたい」と話した。

川合さんは羽布町で4代続く建設業の長男。中学時代に独学でギターを覚え、学生時代は名古屋を中心にライブ活動に熱中したが、2年前に家業を継ぐため地元に戻った。副代表の鈴木健吾さん(32)は下山を愛してやまない同級生5人で昨年2月にビレファンを結成。この1年、移住者と在住者が数居なしにバーベキューで交流する「肉住」や、愛犬家1000人と500匹が参加した下山初のわんこイベント「い

ぬっこ図鑑」、さらに下山初の野外フェス「音恋の里」などの企画や運営に取り組んできた。

昨年11月からは毎月1回、築100年の古民家を改修する活動を始め、来年度中にはカフェや農家民宿を併設する地域の交流拠点に生まれ変わる。

「戻ってきたら90人いた同級生が10人前後しか残っておらず、中学校もぼくらのころの280人から80人に減っていた。下山を何とかできないかという思いがこみ上げ」と話す。

おいでん・さんそんが主催する山里ひとなる塾に参加する広島県出身の牛尾菜花さん(26)は、名古屋大大学院で学ぶ環境学のフィールドとして旭地区を選んだ。高齢化率は約5割だが、介護も支援も必要ない元気なお年寄りが7割おり、こうしたお年寄りは外からの「学び」を刺激に行動するとして、中山間地の課題解決のあり方として問題提起した。

これに対し、2年前に展示ブースでは、足助の巴川河川敷で全国からもファンが駆け付けるようになったサウナベイス・シフクを開業した船屋隼さんや、古民家のシェアスペースを運営する北小田の家の荒川偉洋子さ

市内で初めて自治会を解散して自治会(組)に編入された足助・大多賀自治会の池野利三さんは「人口は8年前の21軒47人から16軒35人に減り、明和自治区に入れてもらう統合第1号になった」と人口減少の厳しさを語った。一方、TFエースでユニボを運営する日本福祉協議機構(名古屋・

天白)の協力で休耕田を利用して無農薬自然米の栽培も始まっており、「今年は活気を取り戻して飛躍の年にしたい」と決意を語った。

足助高校からは観光ビジネスコース3年の女子生徒3人が参加し、「観光で学ぶ」をテーマに1年間学んできた探究学習の成果を発表した。

旭地区で「しきしまの家」や自給家族を運営する鈴木辰吉さん(71)は「中山間地で活動する人たちは『このままじゃアカン』と気付き、いち早く動いた人たち。数年前、50年後も持続可能な社会を維持できるかについて、京大の広井良典教授と日立製作所がAIを使って調べたところ、持続可能

な地方分散型と破局シナリオの都市集中型の分岐点まであと3〜4年後に迫っていると言っていた。気付いた人が地道な努力を続けるしかない」と話している。

ブース出展した他の皆さんは次の通り。

同志社大生・水野葉奈の「小原歌舞伎」▽古民家こらっせる・上田光太郎▽三河里旅・鈴木孝典▽竹々木工房・大山侑希▽想家プロジェクト・川合真裕▽日本福祉協議機構・濱野剣▽クラフトビールもみじIPA・小林一平▽おいでん・さんそん・戸田友介▽MYパワー・鈴木雄也

### 地方分散型 都市集中型

## 3年後に分岐点

展示ブースでは、足助の巴川河川敷で全国からもファンが駆け付けるようになったサウナベイス・シフクを開業した船屋隼さんや、古民家のシェアスペースを運営する北小田の家の荒川偉洋子さ

り組むブルポンの辻竜也さんらが出展した。フォーラムを企画したMYパワーの鈴木雄也さん(29)は「中山間地では『しきしまの家』の活動を行政がやっている

勘違いするなど、自治区同士の情報交換が意外に少ない。学生が関係人口として地域活動しても卒業すれば途切れてしまう。地域単発で盛り上がるのではなく、継続させるためには何か必要かを考えるきっかけが欲しかった」と話す。

同地区で「しきしまの家」や自給家族を運営する鈴木辰吉さん(71)は「中山間地で活動する人たちは『このままじゃアカン』と気付き、いち早く動いた人たち。数年前、50年後も持続可能な社会を維持できるかについて、京大の広井良典教授と日立製作所がAIを使って調べたところ、持続可能

な地方分散型と破局シナリオの都市集中型の分岐点まであと3〜4年後に迫っていると言っていた。気付いた人が地道な努力を続けるしかない」と話している。



「3年間、観光で学ぶことができた」と話すゲストトーク一番手の足助高女子生徒ら=2月23日、豊田森林組合で

「3年間、観光で学ぶことができた」と話すゲストトーク一番手の足助高女子生徒ら=2月23日、豊田森林組合で



参加者の話を熱心に聞く参加者=同上

「3年間、観光で学ぶことができた」と話すゲストトーク一番手の足助高女子生徒ら=2月23日、豊田森林組合で